

# 日本語と中国語におけるほのめかし — ストラテジー及び言語形式から —

頼俊雯(大阪大学大学院生)

## 1. はじめに

日常生活では相手に何かしてもらいたい時, より良い人間関係を保つために, 直接言うより, ほのめかす方法をとることが少なくない. 辞書を引くと, ほのめかすとは本心や真実を, それとなく態度やことばにあらわす, におわせることであると定義されている (『日本国語大辞典』). 本稿でいうほのめかすは, 言いたいことを明言せず, あるヒントを出し, 聞き手に発話意図を察してもらうこととする. 本稿では, ストラテジーと言語形式という二つの面から, 日本語と中国語のほのめかしの類似点と相違点を考察する.

## 2. 関連研究

### 2.1 ポライトネス理論におけるほのめかしに関する研究

Brown & Levinson(1987)によれば, 相手のフェイスを脅かす可能性のある行為を総称してフェイス脅かし行為 (face-threatening act :以下, FTA) と呼ぶ. そして, FTA が相手のフェイスを脅かす度合いに応じて, 以下の5つのポライトネス・ストラテジーに分類する.

- ① あからさまに FTA を行う (without redressive action, baldly)
- ② ポジティブ・ポライトネス (positive politeness)
- ③ ネガティブ・ポライトネス (negative politeness)
- ④ 伝達意図を明示的に表わさない (オフ・レコードほのめかし) (off record)
- ⑤ FTA を行わない (doing no FTA)

本稿で対象とするほのめかしは, ポライトネス・ストラテジーの 4 つ目, 伝達意図を明示的に表さないストラテジーを利用するものである. すなわち, ほのめかしはポライトネスストラテジーの 1 つとして使われる.

また, 「オフ・レコード(ほのめかし)」は以下のように定義づけられる.

ある伝達行為が, 単一の明快な伝達意図によるものとして捉えることができないような形でなされる場合, 行為者が自分の行為を弁護できるような解釈をいくつか用意することで, 自らに「逃げ道」を残している場合, それをオフ・レコードと呼ぶ.

(Brown & Levinson1987; 訳は田中他 2011)

ほのめかし表現による言語行動を実現する基本的な方法は, 発話者が何らかの手段で Grice (1975) の効率的なコミュニケーションへの行動指針に違反することによって, 聞き手に「話し手はなぜそのような話し方をしたのか」を考えさせ, その行動指針違反が納得できるような解釈にたどりつかせることだということが指摘されている (Brown & Levinson, 1987).

### 2.2 日本語と中国語におけるほのめかしに関する研究

日本語におけるほのめかしに関する研究は滝浦 (2008) が挙げられる. 例としては, 暑くて部屋の窓を開けて

ほしいと思っている人が「暑いね」とだけ言って周囲の反応を見ている場合が挙げられる。このように、事柄を明示的に伝達することよりも、相手と自分のフェイス侵害を避けることを優先して、用件への直接的な言及を回避する戦略が「ほのめかし」戦略である(滝浦, 2008)。一方、中国語におけるほのめかしに関する研究は少ない。顧他(1998)によれば、日本語では間接的に依頼することが多いのに対し、中国語では直接的な依頼表現を用いる傾向にあるとされる。また、中国語において、直接度と丁寧さには関わりがなく、間接度が高いほど丁寧であるとは言えない。場合によってはほのめかし表現は失礼な表現になる(王静 2010; 张绍杰, 王晓彤 1997)。

### 2.3 先行研究の問題点及び本研究の目的

従来の研究では、滝浦(2008)を除けば、ほのめかしに関する研究は少ない。さらに日本語と中国語におけるほのめかしに関する対照研究はなされていない。本稿はほのめかしに着目し、戦略と言語形式という二つの面から、日本語と中国語におけるほのめかしの類似点と相違点を解明することを目的とする。

### 3. 調査目的及び調査方法

昔の京都では、家に長居する客に帰ってほしいとき、「ぶぶ漬けはどうです?」と言ったというが、今の時代はめったに使われていないと思われる。客に帰ってほしいときに、何と言うのか、同じ場面において日本語と中国語のほのめかしにはどのような相違点と類似点があるのかを解明するため、アンケート調査を行なった。

日本語母語話者と中国語母語話者それぞれ20名に向け、アンケート調査(自由記述の形)を実施した。アンケートの質問は「あなたの家に、友達が遊びに来ています。夜も更け、あなたは翌日仕事があるので、そろそろ休みたいと考えました。帰ってもらうため、あなたなら何と言いますか。」とした。中国語母語話者に対して中国語版のアンケート調査を実施した。(“假设你的朋友来你家里玩, 时间不早了, 第二天你还有工作, 你想早点休息, 这时你会如何让朋友回家?”)また、第二言語の影響を考慮し、調査対象者の中に、日本語母語話者は中国語学習歴のない人、中国語母語話者は日本語学習歴のない人に限定した。

### 4. 調査目的及び調査方法

本章では戦略と言語形式という二つの面から考察する。4.1は日本語と中国語におけるほのめかし戦略の使用について、そして、4.2は日本語と中国語におけるほのめかしの言語形式について考察する。

#### 4.1 日本語と中国語におけるほのめかし戦略の使用について

日本語母語話者と中国語母語話者の回答を整理すると、日中ほのめかし戦略使用の結果は表1のようにまとめられる。

表1 日中ほのめかし戦略使用の結果

ほのめかし戦略		日本語	中国語
話し手のことに言及する	明日仕事があることをアピールする	◎	×
	疲れたことをアピールする	◎	×
相手のことに言及する	相手のことを心配する	○	○
	相手に明日仕事があるのか尋ねる	○	○
何時までいるか尋ねる		○	×(失礼な表現)
お終いのパターン		○	×
引き止める型(反語を使う)		×	◎
冗談を言う型		×	○

注：◎:多く使われている

○:使われている

×:今回の調査では見つからなかった

日本語母語話者の回答には「明日仕事あるしそろそろ寝る準備しようかな。」「ごめん. 明日仕事…」「明日仕事早いなあ。」のように【明日仕事があることをアピールする】ことでほのめかしているものが最も多かった。また、「ちょっと疲れたな。」「ちょっと眠たいなあ。」「あーばり眠い, 眠くて死にそうやあ. 明日も仕事早いし最悪。」のように【疲れたことをアピールする】ことでほのめかすものが二番目に多かった。しかし、日本語母語話者に多く使われているほのめかしストラテジーは今回の調査では中国語母語話者の回答には見つからなかった。中国語母語話者の回答では、帰ってほしいお客さんにあえて引き留めるのが最も多く見られた。例“时候不早啦, 要不今晚你住我家吧。”(訳: もう遅いから, 今晚家に泊まろうか。) “哎呀, 聊得太开心了都这个时间了, 你难得来一次多玩会儿吧”。(訳: あら, 喋るのが楽しいし, もうこんな時間か! せっかくなからもうちょっと遊ぼうよ。)このように本音と違うことを言うことで, いわゆる反語を使うことによってほのめかすのは中国語母語話者に多用されている。しかしながら, 中国語母語話者に多用される【引き留める】型ほのめかしストラテジーは日本語母語話者の回答には見つからなかった。ここで, 客に帰ってほしいという場面で, 両言語に多用されるほのめかしストラテジーに大きな相違点があることが分かった。

また, 日本語母語話者の中に「今日何時までいる?」と回答した人が何人かいた。しかし, これに対応する中国語は“今天你待到几点?”であるが, これは中国語母語話者にとって失礼な表現になる。さらに, 日本語母語話者の回答には「わ〜もうこんな時間か! 楽しかった!」「遅くまでありがとう!」のように, 【お終いのパターン】ほのめかしストラテジーも見られた。これも中国語母語話者にとって馴染みのないほのめかしであると考えられる。

このほか, 両言語共通のストラテジーも見られる。例えば, 「帰り暗いけど大丈夫?」「帰りしんどくない?」「眠くない?」のように【相手のことを心配する】, または, 「明日何もない?」「明日仕事なん?」のように【明日用事があるのか尋ねる】ことでほのめかしているものも見られる。この二つのストラテジーは中国語母語話者の回答にも見られた。例えば, “你一会儿怎么回家啊?太晚了不安全。”(訳: どうやって帰るの?遅くなると危ないよ。)” “太晚回去的话, 家里人会不会担心呀?”(訳: 遅くなると, 家族は心配しない?)など。

## 4.2 日本語と中国語におけるほのめかしの言語形式について

日本語と中国語のほのめかしの言語形式に注目すると, 日本語のほのめかしには「言いさし文」と擬似独話などの標識的な形式が見られる。しかし, 中国語のほのめかしには標識的な言語形式が見つからない。日本語のほのめかしは標識的な形式を用いられることで, その発話意図を理解する際にヒントになる可能性がある。一方, 無標形式である中国語のほのめかしには言語形式上のヒントが少なく, 文脈がより重視されると言える。

### 4.2.1 「言いさし文」によるほのめかし

日本語母語話者の回答には, 省略文が多く見られた。白川 (2009) によれば, 「言いさし文」は文を従属節のみで言い終わる表現である。また, Brown & Levinson (1987) によれば, ほのめかしストラテジーの一つとして, 「最後まで言うな, 省略せよ」というものがある。収集したデータの中の「言いさし文」によるほのめかし例は「明日仕事で早いから…」「明日早いんで…」などが挙げられる。また, 「言いさし文」以外, 「ごめん. 明日仕事…」「ごめん. そろそろ…」のように, 主節が省略されるのではなく, ただ文が途中で終わっているのも見られる。このように, 日本語母語話者の回答に省略文が多用されていたのに対して, 中国語母語話者の回答には省略文(「言いさし文」を含む)によるほのめかしは見られなかった。

さらに分析すると, 文が途中で終わっている日本語文を中国語にすると, 非文になることがある。例えば「ごめん. 明日仕事…」に対応する中国語は“不好意思, 明天工作……”であるように, 中国語の場合は非文になる。また, 「ごめん. そろそろ…」が対応する中国語は“不好意思, 差不多……”であり, 文としては成立するが, 文を途中で言い終える習慣がなく, 言いたいことを最後まで言うのが普通であるため, このような言い方は不自然に感じられる。

さらに, 「言いさし」文によるほのめかしにおいては, 例えば, 「明日仕事で早いから…」に対応する中国語は“明天有工作要早起.”, 「明日早いんで…」が対応する中国語は“明天要早起.”である。日本語は接続助詞を用いるため, 従属節のみで表現され, 主節が省略されたことが言語形式上で容易に分かる。しかし, 中国語は孤立語

であるし、関連詞を使わないことが多いため、中国語のほのめかしは言語形式上で「言いさし文」であるかどうかは判断し難い。

以上のことにより、日本語でほのめかしに多用される省略文(「言いさし文」を含む)は、中国語においてはその言語的性質により使用されにくいと言える。

#### 4.2.2 擬似独話によるほのめかし

野田(2008)によれば、聞き手となりうる人物の存在を意識した上で、独話のように発話する現象があり、それを「擬似独話」と呼ぶ。今回収集した日本語母語話者のデータの中には、終助詞「なあ」を用いた擬似独話が多く見られた。野田はさらに、この文末の「なあ」という詠嘆の表現は非対話環境に存在するはずで、聞き手がいる場合の詠嘆の表現は純粹の詠嘆ではなく、聞き手に間接的に行為を促す(野田, 2008)。今回収集した日本語母語話者の回答には、「疲れたなあ」、「明日仕事あるしそろそろ寝る準備しようかなあ」、「明日も仕事だから、そろそろ寝ないといけないなあ」、「ちょっと眠たいなあ」、「明日仕事早いなあ」のような終助詞「なあ」を用いたほのめかしが見られる。

森山(1997)は、「なあ」は話し手の意識の中で、一定の時間をかけつつ、その内容が焦点化されてくるという機能を持つと指摘している。これは、単なる瞬間的な感情露出の独話ではなく、その内容に至るまで関連する諸事情を考えての発言であることを「なあ」は示唆できるということである。その諸事情の一つとして何らかの意図を持ち、ほのめかしているということも含まれる。それゆえ、「なあ」を伴う擬似独話はほのめかしの場合に用いられやすいと考えられ、日本語母語話者の回答に多かったことも理解できる。しかし、今回の調査では、このような擬似独話は中国語母語話者の回答にはなかった。これは、中国語において、聞き手が存在する場面では対話形式をとるのが基本となるためであると考えられる。

### 5. おわりに

本稿では日本語と中国語のほのめかしをストラテジー及び言語形式という二つの面から考察した。同じ場面においても、日本語と中国語のほのめかしストラテジーと言語形式には大きな相違点が見られる。今後は被調査者の人数を増やし、さらに幅広い場面における日本語と中国語のほのめかしの相違点及び類似点を考察し、中国人日本語学習者のほのめかしの理解の一助にしたい。

#### 参考文献

- 井上優(2018). 話の受け取り方の言語差—日本語と中国語の場合 日本語学, 37(1), 60-69.
- 顧明耀・趙剛・于エン(1998). 会話分析による日中対照研究—依頼のストラテジーの考察— 広島女子大学 国際文化学部紀要, 6, 7-26.
- 清水崇文(2009). 中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育 スリーイーネット ワーク
- 白川博之(2009). 言いさし文の研究 くろしお出版
- 滝浦真人(2008). ポライトネス入門 研究社出版
- 日本国語大辞典第二版編集委員会(編)(2001). 日本国語大辞典(第二版) 小学館
- 野田春美(2008). 擬似独話が出現するとき 益岡隆志・野田尚史・森山卓郎(編) 日本語文法の新地平 2 文論編 くろしお pp. 193-213.
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. New York: Cambridge University Press.
- 森山卓郎(1997). 独り言をめぐる—思考の言語と伝達の言語 川端善明・仁田義雄(編) 日本語文法体系と方法 ひつじ書房 pp. 173-188.